

第4節 常盤構内(山口大学工学部構内遺跡)の調査

1. 常盤寮C棟新営工事に伴う立会調査

調査地区 常盤構内北東部常盤寮A棟西側道路
C棟南西側空地

調査面積 103m²

調査期間 平成27年1月22日、2月12日

調査担当 横山成己

調査結果

常盤構内は、元来その全域が山口大学工学部構内遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれていたが、当館の継続的な調査により、構内の大部分は埋蔵文化財遺存の可能性が否定されたことから、平成20年度の範囲指定変更に伴い、構内東北部(国際交流会館～学生寮～駐車場)のみが包蔵地として残された。

その包蔵地範囲内にて、常盤寮C棟の新営が計画された。常盤女子寮^{註1}同様、谷地形の埋め立て地が建設予定地となったため、新規布設される配管工事予定地と寮の南側に新規に予定された自転車置き場を対象に立会調査を実施する運びとなった。

配管布設地のA地点では、現地表下0.84mにて旧耕土および旧床土を確認したが、下位の地山(明黄色シルト)に遺構は検出されなかった(図91)。自転車置き場であるB地点では、現地表下0.8mまで掘削が行われたが、造成土内にとどまった(図92)。

【註】

1) 横山成己(2012)「工学部女子学生寮新営その他工事に伴う予備発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成20年度-』, 山口



図90 調査区位置図



写真119 A地点土層断面(西から)

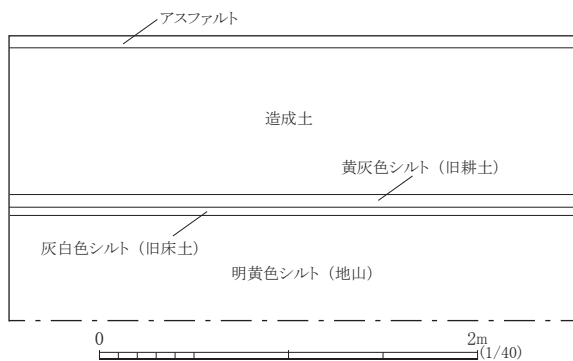


図91 A地点土層断面柱状図

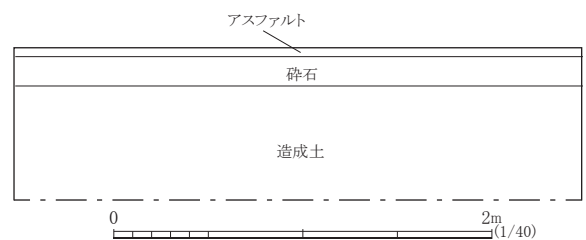


図92 B地点土層断面柱状図